

TX・竹ノ塚周辺地区部会

「トライアングルネットワークの形成と
大学・地域とのまちづくり連携」

(推進委員)

山田 昌三 高橋 和彦
石鍋 秀夫 榎本 富美夫
西村 真海

(カウンセラー)

石塚 修一
鮎川 博司
市毛 英明
佐久間 久恵
松沼 勝



■地区の状況

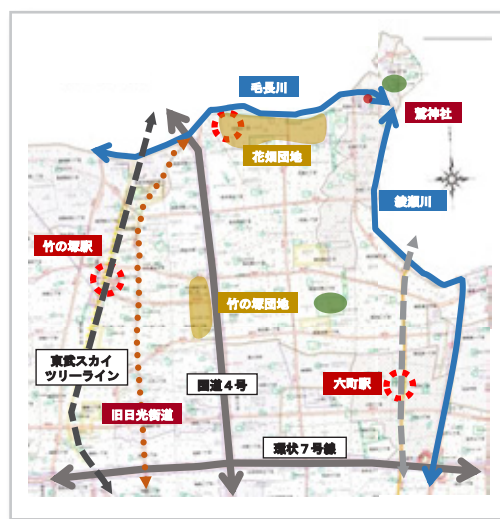
●TX・竹ノ塚周辺地区の位置

足立の北東部に位置し、地区西側を東武スカイツリーライン、北側は毛長川、東側を綾瀬川を境とし、南側を環状7号線で囲まれた大きなエリアです。また、草加市や八潮市とも接しています。

さらに、地区を南北に国道4号、旧日光街道、つくばエクスプレス等の重要な交通動線が縦断しています。

●まちの現状

地区の強みや良い所は、歴史的な資源やまちづくりの資源が豊富にあることです。



歴史的な資源

鷲神や島根のお酉さま、保木間寺社群、旧日光街道など

自然的な資源

毛長川、綾瀬川、毛長公園や遊歩道、桑袋のビオトープ公園など

みどりや公園施設

桜花亭、元洲江公園や総合スポーツセンター

まちづくりの資源

未来大学グラウンドや大規模団地である公共住宅群も多い



大鷲神社



毛長川



公園・遊歩道



保木間の寺社



ビオトープ



総合スポーツセンター

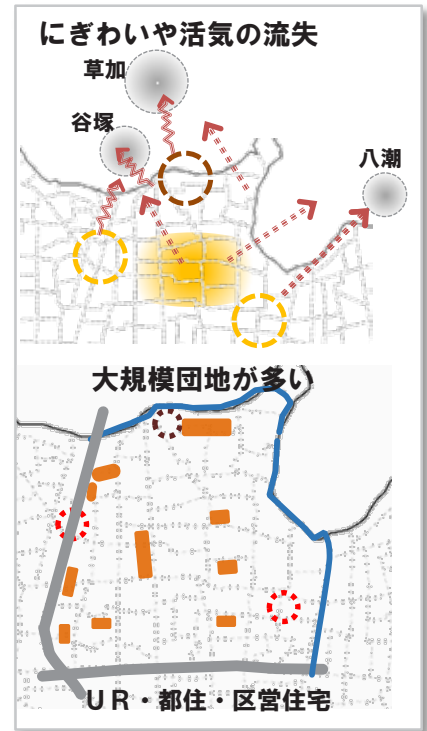
■まちの課題

●地区の弱点

- ・東西の交通網が脆弱で、利便性が低い
(南北の交通網は、比較的充実していますが、これらをつなぐ東西の交通網が非常に弱い状況です。)
- ・周辺には商業施設やにぎわいの核がありません
(特に、六町駅周辺では、新しいまちができましたが十分ではありません。)

●地区の脅威

- ・谷塚駅や草加駅では、賑わいもあり買い物の利便性も高く、谷塚駅は文教大学のアクセス利便性が高い
⇒地区からのにぎわいの流出や分散の可能性が高い
- ・比較的大きな住宅団地が多く立地
⇒住民の高齢化によるまちの活力低下が懸念される



■まちづくりの課題

地区内には、多くのまちづくり資源があります。

しかし、東西をつなぐ交通網が形成されていないことから、つながりが乏しく、せっかくの良い資源や施設の利用が阻害されている状況にあります。

そこで、多くの資源を活かし、これらを地区全体で利用するために、拠点となる地区の役割分担とネットワークをまちづくりのテーマとし、まちづくりへ向けた戦略的な対応を構想します。

《まちづくりの課題とねらい》

○まちづくりへ向けた地域の戦略的な対応がない
・沢山ある資源が活かされない

視点 多くの資源や都市機能をネットワークすることで共有化し、利便性や豊かさを享受する！

役割分担とネットワーク

- まちづくりのねらい
トライアングルネットワークの形成

■竹の塚地区のまちづくり構想の提案

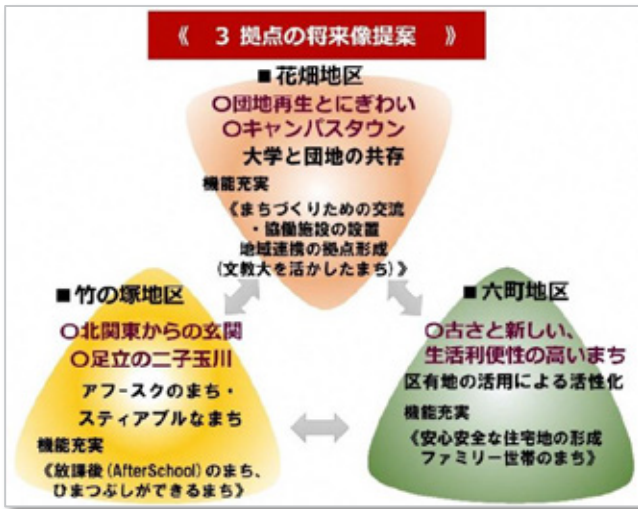


まちの現状や課題などを踏まえて、ネットワークづくりによるまちづくりに必要なキーワードや具体的なまちづくりの対応を提案します。

『トライアングルネットワークの形成と大学と地域のまちづくり連携』とします。

- トライアングル3拠点の将来像提案
(竹の塚地区、花畑地区、六町地区)
- 大学と地域のまちづくりの連携
- 高架下の利用によるにぎわいづくりとサテライトキャンパスの計画
- トライアングルとその他のネットワーク計画

●トライアングル3拠点のまちづくりのイメージ



竹の塚地区では、鉄道高架化と大学の進出も活かし、「北関東からの玄関口として、文化の香り高い、学生のまち」を提案します。

花畑地区では、大学の進出を活かし地域との協働により「団地再生によるにぎわいとキャンパスタウンの実現」を提案します。

六町地区では、古くからのコミュニティが残ったまま、まちが新しくなりました。

テーマは、「安全で利便性が高い、^{ふるあたら}古新しいまちの実現」を目指します。

①竹ノ塚駅周辺地区のアフ・スク、ステイブルなまちの機能の充実

竹ノ塚駅周辺の東西一体となったまちづくりの推進や活性化に向けて、学生がまちに滞在できる、アフタースクールのまちを目指します。

竹ノ塚駅周辺では、アフタースクールのまちとして、滞在できる暇つぶしができるまちをつくり、学生とともにまちを活性化していくことを目指します。

- ・立体化によるまちづくりの動きを活かし再開発による店舗や施設の確保
- ・バイトや遊びなどで学生が時間をつぶせるまちをつくる

ステイブル(ひまつぶしができる)なまち機能の充実

- 竹ノ塚拠点の役割⇒再開発や区画整理に合わせた機能確保
- ①竹ノ塚駅周辺のにぎわいづくりによるキャンパスとのネットワークの形成
《学生のまちや生活のまちの実現》
⇒アフ・スク、バイト、生活利便性
- ②パンケット機能を備えた宿泊施設整備
⇒宿泊、宴会、会議室機能の確保
- ③高架下利用によるサテキャンづくり(大学との連携、人の交流拠点づくり)
⇒大学と地域、学生と区民、社会人等の協働・協学施設の確保



写真提供 | 無料フリーエリアスペース
学生が学生のために運営している
学生施設無料フリーエリアスペース。



- ・大学のサテライト施設の開設による地域の活性化を図る
(※アフ・スクとはアフタースクール、ステイブルとは暇つぶしができるといふ造語です)

団地再生のにぎわいとキャンパスタウンの実現

○人の交流拠点、連携拠点づくり

- ⇒ キャンパスで、地域住民と学生とのかかわり(高齢者、学生等)
- ⇒ 竹ノ塚駅周辺で、大学と区民、社会人等








②花畑地区の大学と地域が

共存するための連携拠点の形成

地域と大学や学生が直接関わりを持つことができ、施設等の開放とともに地域と協働でまちづくりを進めていくための施設づくりによる連携を提案します。

○まちと大学のまちづくり交流・協働

施設の開設や施設開放など

○大学や地域の足の確保、コミュニティバスやキャンパスバスの充実

③古いコミュニティが残り、

生活利便性の高い『古新しいまちの実現』

古くからのコミュニティが残ったまま、新しい安全なまちの基盤が整備されました。

まちに必要な施設の誘致とともに、新しい住民が増えていくことで、まちづくりの可能性が広がっています。

さらに、都心への直通運転が可能となった北綾瀬駅とのネットワークの必要性も高まりました。

また、六町地区についても駅前の開発により大学との連携拠点などについても十分な可能性があります。

安全で利便性が高い、古新しいまちの実現

- 六町地点の役割⇒再開発や区画整理に合わせた機能確保
- バンケット機能を備えた施設
⇒宿泊、宴会、会議室機能の確保
- 区有地の有効活用
商業施設の誘致の早期実現
・民間のにぎわい誘導、
ショッピングモール、デパート

古くからのコミュニティ 活かす 新しいまちの基盤施設を 活かす

■大学・地域とのまちづくり連携

《 大学と地域の連携 計画 》

花畑キャンパスでは

- 人の交流・連携拠点づくり (仮称)地域交流推進室等の開設

- ・大学の多様な可能性と地域のニーズとをマッチングさせ、大学の教育研究のテーマに即した学びの場の構築
- ・大学を地域へ開放し、交流しながら、相互に学び合う場をつくる
- ・大学は地域との連携を深めてこそ、存在意義がある
⇒大学 図書館機能やサロン、食堂、会議室等の充実した施設の活用
⇒多様な教育的資源 (様々な専門分野) を活かした地域連携

出典：文教大学「東京あだちキャンパス」開設イメージムービーより

近年、大学教育や活動において地域との連携が重要なテーマになっています。

提案のポイントとして…

- ・花畑キャンパスでは、大学教育と地域の利便性向上を連携で実現
- ・地域の活性化に向けた大学や大学生との協働の可能性と役割分担

この大学と地域の連携に関する先進事例と地域連携に関する考え方を提案します。

○アーバンデザインセンター柏の葉

東大、千葉大が中心となり、行政や民間企業も参加して地域の課題解決に取り組んでいる事例。駅には大学のサテライト施設が立地し交流や連携を促進している。

○二子玉(ニコタマ) 夢キャンパス

東京都市大学の夢キャンパスでは、地域が気軽に利用できる多目的スペースを開設し、イベントを通じて大学生が主となり地域との連携や活性化を実現している。

● 東京大学「UDCK アーバンデザインセンター柏の葉」

組織と運営
7つの構成団体により、共同運営
(東大、千葉大、柏市、三井不動産、柏商工会議所、柏中地域ふるさと協議会、首都圏新都市鉄道)

理念と役割
基本的な理念は「公・民・学の連携」
地域密着型のまちづくりシンクタンクとして、市民と行政、企業、大学などとの協働・対話を通じた地域まちづくりを推進

● 東京都市大学「二子玉川夢キャンパス」
夢をカタチにするために作られたサテライトキャンパス

- 夢キャンの活動テーマ
 - ・学生が主体となってイベントやまちづくりへ対応
 - ・地域の課題を解決する
 - ・学生も地域と一緒に学んで学ぶ
 - ・学生と地域住民、子供との交流

夢を映し出すデジタルサイネージ「電子掲示板」 駅周辺の立地に集まれるサテキャンとまちづくり連携

情報発信学習コーナー くつろぎスペース 多目的スペース

●大学との地域連携の考え方のまとめ

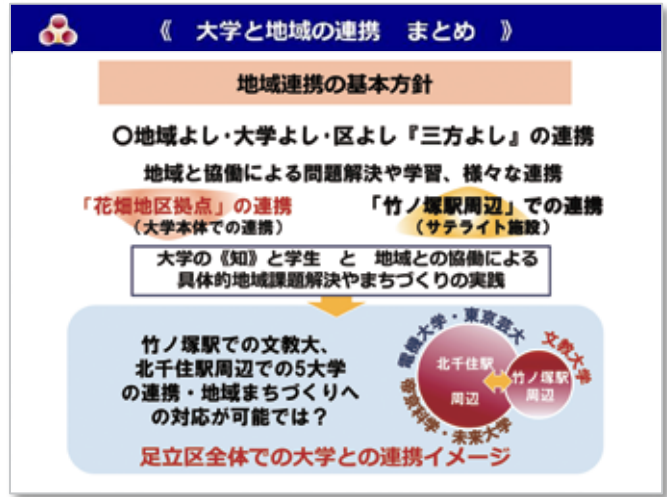
地域連携の考え方では、「三方よし」の連携でなければ、継続的な取り組みは難しいと考えます。

- ①まずは、地域が良い
- ②次は、大学のメリットが生まれる
- ③さらに足立区にメリットが生まれる仕組みをつくる

このことで様々な可能性が広がり、色々な支援も得られると考えます。

区内には5つの大学もあることから、今後、区内大学のまちづくり地域連携などもできると素晴らしいと思います。

その一端を、竹の塚のサテライトキャンパスで実現できるとよいと考えています。



■高架下の利用によるにぎわいづくりとサテライトキャンパスの計画

竹ノ塚駅では、高架下の利用が可能となることから、まちに必要な機能や活性化のための高架下の活用事例を提案します。

●活性化のための高架下活用事例

① 2540 アキオカ・アルチザン

職人のまちとしてもものづくりをテーマに高架下利用を進めている秋葉原と御徒町間の高架下の事例です。あだちブランドや産業活性化にも活用可能です。

②中央ラインモール nonowa

三鷹から立川駅間の約9kmの連続した高架下空間をまちづくりに活用する中央線の高架下の事例です。

③身近な梅島駅の高架下利用

東武鉄道でも保育園やフィットネスクラブへの活用例が他地区でも見られます。

④高架下のサテライトキャンパス活用

地区部会では活用の第一候補として、大学との地域連携のためのサテライトキャンパスの設置を提案します。

立体化や再開発を利用して施設をつくり、花畑キャンパスとのつながりを強化し、ステアブルなアフ・スクのまちによる活性化を目指すことを提案します。

■トライアングルとその他のネットワークの計画

地区の利便性をより向上させるために3拠点をつなぐための交通や歩行者のネットワークの提案です。

★3拠点連携と核づくり
— トライアングルネットワーク

★東西ぐるりんバス
— 東西交通ネットワーク充実
・分担した役割を享受するためのネットワークの確率

★緑の骨格プロジェクト ナナヨングロス
・環七、国四の街路緑化の充実によるイメージアップ

★回遊性、地域内観光のネットワークを形成する
・春夏秋冬、四季の公園めぐり、歴史、神社の史跡ネットワーク

★毛長川等河川と特徴ある緑のつながり
・かわの辺の道ぐるっと構想 (2015 フォーラム提案)

①交通ネットワークの形成

東西ぐるりんバスなどのコミュニティバスやキャンパスバスなど、大学と足立区が協働した取り組みが重要です。

このことで大学と地域に相互メリットが生まれます。

②回遊性、地域内観光のネットワークの形成

多くのまちづくり資源を活かし、散策ルートも駅から街中へ、川辺の連続した空間へとつなげ、3拠点の活性化とともに奥行きのあるまちの形成を図ります。

また、毛長川と特徴ある連続した公園や緑を繋ぐ、『かわの辺の道ぐるっと構想』なども重要なネットワークの一つとして提案します。

③ナナヨングロス、緑の骨格づくり

最後に当地区は南側を環状7号線、中央に国道4号が通過しています。

この2つの幹線道路のイメージは、足立区や地区のイメージの骨格を形成することになります。

そこで、この国道と都道の緑化を充実し、緑豊かな地区イメージを形成するためのネットワークとして、『ナナヨングロス、緑の骨格づくり』として提案します。

《トライアングルと周辺エリアへのネットワーク計画》

①交通ネットワークの形成

トライアングル、他エリアへの《交通のネットワーク》

→各種バスルートの充実・東西ぐるりんバスの充実

・コミュニティバスの充実 (六町・竹の塚、花畑回地)

・大学とも協働でバス便の充実

(キャンパスバス竹の塚や六町へ学生を運ぶ)



《トライアングルと周辺エリアへのネットワーク計画》

②回遊性、地域内観光のネットワークの形成

●歩行者ルートの充実

・散策ルート、帰り道ルート

・四季の公園めぐり、歴史、神社の史跡ネットワーク

●毛長川等河川と特徴ある緑のつながり

・かわの辺の道ぐるっと構想 (2015フォーラム提案)



《トライアングルと周辺エリアへのネットワーク計画》

③緑の骨格プロジェクト (ナナヨングロス)

・地区や足立区のイメージ向上

・ネットワークのかなめ

・環状7号線、国道4号の街路緑化

⇒みどり豊かな(?)足立区の骨格イメージをつくる

⇒地区及び足立区の中央をクロスするみどりの軸づくり



■最後に、メンバーの思いを一言

最後に、3ヶ年研究してきた中でのメンバーの思いです。
それぞれの地区へのまちづくりの思いは様々です。
夢も含めてまとめました。中には、超長期的な課題もあります。
提案の内容は簡単にできるとは考えていませんが、少しでも前に進んで実現できればと考えています。



《3年の活動で… 望む必要なまちづくり一言》

①鉄道立体化に伴うまちづくり

- みんなが集えて、考えて、活動できるサテライトキャンパス・まちづくりセンター
- 高架下の有効活用として、エリアデザインとしての統一が必要
- イベント会場の新設
(ミニ集会やミニコンサートなどの開催)
- 高架下のまちづくりセンター、コミュニティなどの憩いの場かけ出し横丁(屋台村)のような楽しみ出合いの場、便利な場所として考えていく
- コミセンは交流広場(老若学生子供)、託児所や大学生による観光案内や話し合いの場

②文教大学進出に伴うまちづくり

- 学生、若者をターゲットにしたお店、施設づくり
- キャンパス(花畑)と竹の塚を結ぶバス路線の強化(東西グルリンバス)
- インスタ映えするパワースポットの創出や紹介(神社、公園など)

中長期計画として…

③ホテル宴会場の誘致

- 竹の塚周辺では、100人規模の会議や宴会をする場所がないので将来的に施設をつくりたい

④花畑地区の願い(長期計画)

- 軌道敷内を走る(鉄道路線)交通機関の誘致、延伸(舍人ライナー等)
- バス路線の強化(鉄道優先)

以上

TX・竹ノ塚周辺地区部会研究発表について

まちを受け継ぐ主体として学生を育てていく

私は、人と人をつなぐことにより地域課題を解決する、コミュニティデザインを専門としています。千住地区以外に大学がやってくることで、皆さんのご期待が非常に高いということが感じられるご発表でした。

文教大学の立地が、「TX・竹の塚周辺地区」から若干、外れているところで、どのように学生を呼び込むかということが大きな課題になると思います。アフ-スク、それからスティアブル、さまざまな構想は良いと思いますが、傾向としてありがちな、まちと大学との連携だけに終わってしまわないようになさってください。もう少しミクロなレベルで、学生をどのように地域に引き込んでいくのか、そして、まちを受け継ぐ主体として、学生をどのようにまちづくりに参加させながら教育していくのかという視点がとても大事になると思います。

大学との連携では、さまざまな事例、特に、東京大学、それから東京都市大学をご視察されていますが、特に東京都市大学の夢キャン、この活動テーマにある、学生が主体となってイベントやまちづくりへ対応、こちらをご参考になさるといいのではないかと思います。

とかく地域連携のなかでは、大学生をボランティアとして当日だけ呼んできて、働いてもらうというようなことがありますが、学生を「地域を受け継ぐ者」として育てるならば、企画の段階から学生を入れていくと、学生自身にまちをハンドリングする感覚が身についていくのではないかと思います。それが、地域を受け継ぐ者として、自分の考え方や意思決定が地域を動かす力になっているということを実感する機会となります。そのような機会をまちが提供することにより、まちが、学生を引き込む大きな力になっていくのではないかと思います。

こうした取り組みを積み重ねていくことにより、学生の地域への定着、地域への学生の呼び込みというものが、増えていくのではないかと思います。非常に素晴らしい発表、ありがとうございました。



森下 一成

東京未来大学
モチベーション行動科学部教授